

Pick UP!



興南高校
ハンドボール部監督 黒島宣昭さん

1961年生まれ。浦添市出身。興南高校卒業後、日本体育大学へ進学。学生時代はハンドボールの主力選手として、インターハイや全日本大学選手権などで活躍し、同大会では準優勝の経歴を持つ。83年より興南高校教諭として勤務。
ハンドボール部監督として多くの優秀な選手を育て、興南高校の名を全国へと轟かせている。2005年度全国高校総合体育大会にて2年ぶり2度目の優勝を果たし、3月の選抜大会全国制覇に続き二冠を達成。同大会では史上初の三連覇を達成した。



6対6で本番さながらに行なう攻防の練習

「高校の優勝が小・中の生徒へ与える影響は極めて大きい。そのためにも頑張りたいですね」と沖繩のハンドボール界全体の活性化も視野に入れる。前述の仏プロリーグの田場選手が描く「沖繩にプロチームを作りたい」という夢にも大いに賛同する。「まだ教え子から誰もハンドボールでオリンピック選手が出ていない。いつかは教え子からオリンピックへ——」県勢初の三冠達成、そしてハンドボールをますますメジャーなスポーツにするための黒島監督の挑戦は続く。



その日の練習内容について指導する黒島監督

「ハンドボールの魅力については「シュートの醍醐味。キーパーとの駆け引き。見てもやってもスピーディで楽しい」と語る。ハンドボールはスポーツの原点といえる「走る・跳ぶ・投げる」の三要素があり、スタミナやパワーも要求される。だが、技術さえあればいいのではない。「全国レベルでは技術に大差はなく、精神面の強さが試されると思えます」。指導で大切にしているのはスポーツを通じた人間教育。「ハンドボールを通じて社会へ貢献できる人間性を育てたい」と主張する。それが選手の内面を育て、チームの自主性と団結を育むのだろう。



迫力とキレのある比嘉傑君のポストシュート



練習終了後のミーティングも大切な要素



元気いっぱい!部員全員のスナップショット

いつか世界の檜舞台へ生徒を輩出したい。
ハンドボールが県内に紹介されてから約四十年。全ジャンルの男

女アベック優勝もある。中でも浦添市はそのメッカで、指導者の層も厚く、父母や地域のサポート体制もしっかりしている。浦添の盛り上がりは沖繩全体へと広がれば、さらに強い沖繩を全国へとアピールできるに違いない。

ハンドボールの魅力。人間教育の大切さ。

黒島監督自身も浦添市の出身。三歳上の兄の影響で神森中時代にハンドボールを始めた。その後はめきめきと頭角を表し、興南高校を経て日本体育大学へ進学。イ

ンターハイや全国大学選手権で活躍し、母校へ指導者として戻ったのが二十二年前のこと。以来、興南高校の指導一筋。選手としての経験を生かしつつ、ゲームの駆け引きや敵の戦術を読むなど、全体を客観視する監督としての新たな視点も加わった。就任当初は選手が揃わず苦勞もしたが、苦しい時期を乗り越え実績を積み上げてきた。

今年八月、興南高校の男子ハンドボール部が二〇〇五年度全国高校総合体育大会で二年ぶり二度目の優勝を果たした。去る三月の選抜大会全国制覇に続き二冠を達成。三月の大会では史上初の三連覇という偉業を成し遂げた。地元沖繩の選手たちを優勝へと導き続けている指導者が、黒島宣昭監督その人だ。驚くべき強さの秘密とハンドボールの魅力を知りたくて、興南高校体育館を訪ねた。

「ハンドボールを通じ、人として大きく成長してほしい」

興南高校 ハンドボール部監督 黒島宣昭さん

選手の高さが興南高校の強さの秘密。

暑さの厳しい体育館で、選手たちは精力的にシュートやパスの練習を行う。現在、部員は三十六名。OBも入り混じった練習試合では、迫力のあるシュートとキレのあるパスワーク、鮮やかなフェイントが目撃された。
全国制覇実現の背景には「ハンドボール王国宣言で注目される浦添市出身の生徒が多いこと」が挙げられると黒島監督は言う。小・中ですでに全国大会を経験しているような精鋭たちが、高校でも全国制覇をめざして興南に集まって

くる。高い技術力を持つチームが自然とできる図式だ。監督を務めて二十三年目になる今年には「特に素晴らしい生徒に巡り会えた」と目を細める。卒業生の中には体育大学へと進学し、選手や指導者になった者も。フランスのプロリーグ「ニーム」のポイントゲッター田場裕也選手も興南高校の出身。黒島監督が直接指導した。当時からプロをめざしていた。本当にハンドボールが好きでしたね。今でも帰省の度に母校に立ち寄り、後輩たちに刺激を与えてくれるという。

